

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	キリスト教主義にのっとり「ケアサービスの実施を」と日々向上に努めているが、具体的な理解が全体に広がっていない。	法人の基本理念「愛と希望」をもとに基本運営方針を定め、事務室に掲示し職員各自が確認し、理念を実践できるように努めています。	職員に理念を浸透できるよう、会議にて確認の機会を持ったり、理念が実践できるように目標を設定し取り組むなどの検討をされることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れ・大学生ボランティアなどの受け入れと協力から取り組んでいるが、それ以上の物が進んでいない。	近隣の幼稚園の園児がホームの畑でさつまいもの苗植えや収穫を手伝ってくれました。また、高校生の体験学習や大学生のボランティアの受け入れ、敬和大学の行事に参加するなどして地域との交流に努めています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けてのアプローチが多くない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	審議検討された内容について報告を受け、向上に努めているが全体的なスタッフの共有が不十分である。	2ヶ月に1度、包括支援センター職員、敬和学園教授、民生委員、ご家族代表に参加してもらい、ご利用者の状況報告、ホームでの事故報告などを行い、意見交換をし、ホームの運営に繋げています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の相談員のアドバイスなど頂きとても参考になるが、事業所として、積極的な行動が多くない。	市の職員には運営推進会議にも参加いただいているほか、2ヶ月に1度は介護相談員の受入も行うなど連携をとりながら運営を行っています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての取り組みをより学び、実践していく必要がある。	玄関の施錠は行わないなど身体拘束を行わない方針で運営しており、職員の理解を深める為の研修も行いました。状況によってやむを得なく身体拘束をする場合にもご家族に説明・同意を必ず行っています。	調査時点ではユニット玄関の施錠がなかったほか、ご家族への身体拘束に関する同意書及び経過説明が作成されておりませんでしたので改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	常に自己吟味また、職員同士で確認しながら、健全なケアサービスを目指し努めているが、その検証をより進めていく必要がある。	虐待の防止についても他の事業所で起きた実際の事例検討を行い、職員の理解を深めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の担当者が中心となり実践しているが全体で共有する必要がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には1時間ほどの時間を取り説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱などを設置しているが意見がない。カンファレンス等を通して意見を反映しているが、外部者への公表が出来ていない。	日常の面会時や電話でのご家族とのやりとりにて要望の確認をしているほか、ご家族代表には運営推進会議にも参加していただいています。また、サービス担当者会議にも参加できるご家族には出席して頂き、意向の確認を行っています。	ご家族がホームに集まる機会も設け、意見交換の機会として活用されることを期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別研修を通し、意見を聞いているが、反映の為に更なる可視化された取り組みが必要である。	毎月のリーダー会議、ユニット会議で意見・要望の確認を行っています。また、職員の状況に合わせた個別研修も行なうなど、職員の意見を確認できるようにしています。	調査時点では、一定期間のユニット会議の議事録の確認ができませんでしたので、会議に参加できなかった職員への内容の周知の為に議事録を作成されることを期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労基法にのっとり、運営を行っているが、更にスタッフが向上心を持てるよう努力が必要だと思う。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、現在「人材育成」をテーマとして、取り組み始めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スタッフの意欲向上の為にSDS・OJTを中心にアプローチを行っているが、更なる意欲性を引き出すように努力していきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のアプローチ・ラポールの形成の為に全面受容(傾聴・悲しみの共有)に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホーム内の見学をしていただき、また面接を行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、全力でケアを実践しているが、もっと社会資源等の情報を収集し、よりよくしていきたい。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフの個々の個性も多くあるが、具体的には、食事を一緒に食べるという事を通して取り組んでいる。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療的な側面から原則、定期受診は家族に行ってもらい、情報の共有を通して、関係性を築く努力をしている。	年に2回事業所広報を作成しご家族に送付したり、日頃の活動の様子のお写真をお送りするなど、ご家族とも情報が共有できるよう努めています。	生活の様子をまとめた個別のお手紙を定期的に送るなどして、よりご家族へ情報を発信できるように検討されることを期待します。
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者もさることながら、より関係性を継続する為に今後具体的なアプローチを考えていきたい。	ご家族の協力も得て、買い物支援や外食支援、行きつけの理美容室への利用支援などを行い、これまでの関係が継続できるよう支援しています。	職員の退職についても広報やお手紙を使用し、ご家族へ伝達できるように検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つの方針として、10人いる中で9人が満足しても一人が悲しんでいるのなら、その一人にこそ意識を向けているようスタッフは指導されているが更に強化していきたい。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合フォローしているが、あまり相談が無いのが現状である。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望にそえるように努めているが、さらに努力をしていきたい。	日々のご利用者とのやりとりにて要望を確認し、その都度対応するように心がけています。また、6ヶ月に1度のサービス担当者会議にはご利用者、ご家族にも参加して頂き意向の把握に努めています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後に入居前の情報不足が多々あり家族、親戚、面会者を通して、情報収集に努めている。	入居の際にご利用者、ご家族等から確認した情報をもとに、これまでの生活の情報をアセスメントシートにまとめています。また、6ヶ月に1度はアセスメントシートの見直しもを行い、日々の生活の中で得られた情報も追加しています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランはさることながら、日々の変化などを申し送り、支援記録に残し、申し送り等、情報収集に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよいチームケア作りとコミュニケーションをとる為にも更なる工夫をしようとしていきたい。	ユニット会議にてご利用者の状態を確認し、モニタリングも毎月実施しています。また、サービス担当者会議も6ヶ月に1度行い、ご利用者、ご家族とともに介護計画の見直しを行っています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録を参考にケアプランを作成しているが、スタッフの気づきを築くスキルをアップする為に工夫していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「ご利用者を変える」のではなく、「自分たちが変わる」をモットーに取り組んでいるが更なる意識向上をしていきたい。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	もっと多くの情報収集する必要性を感じている。地域にも積極的に出向きそれを手段にして情報収集。社会資源を発掘し支援に繋げていきたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医にかかってもらい、定期的に口頭又は情報提供書を出し支援している。	ご利用者・ご家族の希望に合わせた医療機関にて受診しています。基本的に受診支援はご家族にお願いしており、必要に応じてホームからも医師へ情報提供を行っています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤は限られており電話での相談が多いのが現実である。主にかかりつけ医との相談が多くなっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に様子を見にいき、病院の看護師から情報を収集している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状に応じての対応になっており早期ではないのが現状である。	管理者は医療行為が伴わなければ支援は行っていきたいと考え、ご家族にも契約の際に説明はしていますが、ホームとしての指針や職員との検討の場はまだありません。	職員とも協議し、ホームとしての指針をまとめ、職員と共通理解をされることを期待します。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、定期的な訓練が不足しており、今後の実践力をつける為に訓練を行っていきたい。	必要に応じて想定されるケースを対象に職員研修を行い、職員が適切な初期対応ができるよう支援しています。	救急救命の講習など外部研修の機会も活用し、職員の実践力を向上されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は年2回行っている。訓練でもパニックになってしまう事があるが、徐々に形になりつつある。今後は地域とのかかわりにも力を入れていきたい。	年2回、日中・夜間の火災や地震を想定し避難訓練を実施しています。前回の課題であった非常用の食品の確保はされていましたが、避難訓練に地域の方の参加はありませんでした。	災害時の地域との協力体制を確認するためにも、地域の方へ避難訓練への参加要請をやされることを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	想いはあるが、言葉、イントネーション等に問題を感じる事がある為、スタッフの研修を充実させ改善に努めたい。	ご利用者の尊厳を大切にケアに努めており、ご利用者の写真を広報や敬和学園大学のパンフレットに使用する際も必ず確認をとっています。	広報の写真の掲載についても契約時に同意書を取るなどし、書面で残されることを期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ個々の個性 スキルに差がみられる為、研修を通して、向上を図りたい。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一つのモットーに「人を変える」のではなく「自分が変わる」を掲げているがスタッフの個人差が大きく、研修を通して向上していきたい。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の個性を尊重しているが、ケアが必要な場合、本人の意思確認が取れるという思いで取り組んでいきたい。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフの生活に対する考え方に差があり、出来ている部分と出来ていない部分がある為話し合いをし、向上していきたい。	ご利用者の状態に応じて野菜の皮むきなどの下ごしらえや食器洗い、テーブル拭きなども手伝ってもらっています。ホームには畑もあり、ご利用者にも野菜の収穫を手伝ってもらっています。誕生日にはご利用者の嗜好を取り入れたメニューにしたり、おはぎ作りも一緒に行うなどし、食事を楽しんでもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者委託をしており、栄養管理はできている。また刻み食・お粥食などの提供を行い状態に合わせた努力をしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性の認識がスタッフにばらつきがあり、今後研修を通して向上したい		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録は何のためにあるのか理解し、それに応じた支援を心がけている。	全員を対象に排泄チェックを行い、ご利用者に応じた排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけを行い、気持ちよく排泄できるよう支援しています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じてだが水分補給、適度な運動に心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人入浴したい時間に合わせられるように希望を聞いている。介助もできる部分はご本人に聞いて頂き気持ちよく入って頂けるようにしている。本人本位と本人のいいなりとは区別していかないといけない事を指導している。	入浴はご利用者の希望に応じて支援しています。入浴を嫌がる方にもタイミングを見計らい声かけして、お風呂に入ってもらおうよう努めています。	調査時点で介護記録にご利用者が入浴を嫌がる内容についての記録がありませんでした。職員間で記録の内容について検討されることを期待します。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで休息して頂けるようにし、またこちらから体調に気を配り声かけを行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用に対しては、知識が乏しいと思う。服薬の支援・症状の変化に関しては常に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌と一緒に歌ったり、軽い軽作業と一緒にやっているが、まだまだ一人一人がはりあいを持って過ごせるまで入っていないので今後向上させていきたい。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ出かけるのは近くの散歩などで春の穴見や大学で行われる行事への参加などの機会しか出かけられていないが、気分転換が出来大切な外出となっている。もっと外出行事を計画し、実施に繋げていきたい。	ご利用者にホームでの生活をより楽しんでもらえるよう、お花見やあやめ見学、ぶどう狩り、紅葉狩りも企画しましたが、実施できたのは隣の大学でのお花見のみとなりました。	当初の外出計画が実施できるように、職員間で実施できなかった原因を検討し、対策を立てられることを期待します。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受容し支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	受容し支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにおいて、個々の居場所づくりに努めている。	フロアにはソファやピアノが置かれていたり、畳のスペースもあり、ご利用者同士がテレビを見ながらゆったりと過ごせるようにされています。共有スペースからは、ホームの中庭もよく見え、畑の野菜や季節の草花を見渡すことができます。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の気持ち、感情を理解したうえでユニット間の交流など、工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は本人が使い慣れたものを持ちこみしてもらっている。	ご利用者・ご家族とも相談し、タンス等の家具やご家族の写真など、使い慣れた物、好みの物を持参し、居心地良く過ごせるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	やっているつもりになっている気がする。 もっと「出来る事」「わかる事」を追求していきたい。		